

# 現場にのめり込むのが大切

(株)ティーエーネットワーク 代表取締役 谷保 茂樹さん (56歳)  
Shigeki TANIHO

## メキシコの歯科医から転身

(株) ティーエーネットワーク 代表取締役の谷保茂樹さんは、メキシコで歯科医の資格を取得、診療所勤務を経てから開発コンサルタントになったという異色の経歴の持ち主である。

「1970年代に北米からボリビアまで旅行しましたが、中南米のエキサイティングな雰囲気に感化されました」。谷保さんは、一度は日本の大学に入学したものの、メキシコの大学に入り直した経緯をそのように語る。

メキシコでは、手に職をつけるため歯科医を目指し、歯学部在籍した。卒業後は同国の診療所などで働いたが、その間に日本の大学時代に知り合った女性と結婚もした。

しかし働き出して2年が過ぎた時、「このまま日系社会で一生過ごしてもいいだろうか」と思い、また妻から日本の歯科医師免許も取得するよう勧められたこともあって、一度日本に帰国することに決めたという。

帰国後、歯科医師免許のための勉強をしながら仕事をすることにしたが、「どうせなら医療関係がいい」と思い、友人の紹介で保健・医療コンサルティング会社に入社した。この会社では、ODA案件のプロジェクトファインディングを行っていたが、それが谷保さんがODAにかかわるきっかけとなる。

その頃、日本で歯科医師免許を取るためには、日本の大学に入り直す必要

があると知り、一時メキシコに戻るかと思ったが、子どもができたこともあり、日本で働き続けることにした。

当時、会社は高い利益を出していたが、谷保さんは「もっと現場と接する実のある仕事がしたい」と感じていた。その時、現場で活躍できるJICA専門家などの存在を知り、その会社を退職。その後、業務調整員の仕事に就き、10年間、ドミニカやボリビア、ニカラグアでの仕事に携わった。その中で、当時大半を占めていた“個人事業主”の専門家たちにホームグラウンドが必要と考え、ティーエーネットワークを設立し、現在に至っている。

## キャリアに「パス」などない

「自分の場合いつも普通の道から外れているので、キャリアに『パス』というものはないようなものです」と冗談交じりに語る谷保さんだが、仕事で大切にしてきたのは、「現場を好きになること」だという。「現在の国際協力業界は高学歴志向が強い風潮があるが、大学で学べることと、現場で役立つ力は異なっています」。そして、「現場にのめり込めば、現地の人も本音を出してくれます。逆に自分がそれまで身に付けてきた専門性などへのこだわりが、足かせになることもある」ということだ。

また、谷保さんはJICA帰国専門家連絡会かながわ (JECK) の事務局を務めていたが、「専門家の中には、定年近



### Career Path

23歳	慶應義塾大学を中退し、メキシコ国立自治大学に入学
26歳	メキシコの診療所で勤務
29歳	保健・医療コンサルティング会社に就職
35歳	(財)日本国際協力センターの海外派遣員としてプロジェクト業務調整員を勤める
44歳	(株)ティーエーネットワークを設立、代表取締役に就任

くまで民間の大手企業の技術畑一本でやってきた人たちもいます。彼らは『自分の人生の中で、専門家などと呼ばれたことはない』と恥じらいながらも嬉しそうにしていました。本来、『専門家』という言葉はそれだけの重みを持つもの。それをわきまえつつ、謙虚に自分の専門性を磨いていくことが重要だと思います」。

さらに、谷保さんは自らの夢について、「民活型技術協力プロジェクトを一層促進することでODAをより民間に開かれたものにしていくこと」と、「戦争が起こらない世界を創ること」と語る。「戦争で苦労した母からは、『絶対に戦争をしてはいけない』と教えられてきました。残念ながら現在は『ポストコンフリクト』にかかわる仕事が存在しますが、本来こうした仕事はない方がいい」。そして、4月に新しい理事長を迎えたJICAが、平和創造に向けまい進していくことに期待を寄せた。